

県民意見提出制度による意見とそれに対する県の考え方

史跡甲府城跡整備基本計画（案）

No.	項目	意見の内容（概要）	意見数	意見に対する県の考え方
計画全般				
1	全般	<p>今回の「史跡甲府城跡整備基本計画」（案）に係り以下のとおり意見とします。</p> <p>基本的に「史跡甲府城跡整備基本計画」（案）の主旨については県の文化・観光資源を有効に活用し県の文化・観光収入の進展に寄与するものであり異義はありません。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の主旨につきましては、ご理解いただきありがとうございます。</p> <p>今後は整備基本計画に基づき、本物を感じ、価値を共有し、みんなで守り伝える地域の「城」をめざして整備を行って参ります。</p>
2	全般	<p>県外から来たものとして、甲府は他県からみても観光地としてとらえていないし、観光の宿泊先としても候補にならない。山梨で歴史的に唯一有名な武田信玄とこの城は関係ない。</p> <p>また山梨に住んでみて甲府が文化の中心といえるほどまわりと格差があるわけではない。なので甲府城跡まわりを整備することは、他県の人間にとっても山梨の住民にとってもあまり意義あることだとはおもえません。まわりの方に聞いても同意見でした。なぜあそこに無駄な金をつぎ込むのかと。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>史跡甲府城跡は東日本における初期段階の織豊系城郭であり、築城期の野面積み石垣が良好に残存するとともに、天守台を最頂部とした階層的な縄張り構造がよく残ることから、織豊期の政治・軍事の状況と当時の築城技術を知る上で重要な価値があるものです。このように城がもつ多様な価値を明らかにし、地域の誇りとするにふさわしい史跡とするため、整備して参ります。また、本県の重要な文化資源であるとともに観光資源としても大きな可能性があることから、歴史景観と都市景観が調和した賑わいのある空間作りが必要と考えております。</p>
3	全般	<p>ここの地域性は武田の館から甲府城と戦国時代から江戸時代そして明治・大正・昭和と他にはない揺るぎない歴史街道を創り上げています。そして武田氏三代とは歴史の流れからしても切っても切れない関係性があり、これもまた重要な事実であります。このような観点から甲府は「歴史まるごとテーマパーク」と考えてもよいのではないかと思います。その中で「甲府城」をどのように盛り立てていくのかを考えてみなければなりません。</p> <p>この素晴らしい歴史の流れをきちんと資料化し語りべの人達を育成していく教育の場づくりの必要性があります。</p>	1	<p>【記述済】</p> <p>甲府城跡の公開・活用については、第7章第3節基本方針【公開・活用】及び第8章第5節4周辺の文化資源との連携による観光利用において、甲府城下町や武田氏館跡など、甲府城跡周辺の歴史的・文化的資源を活用した地域総体としての取り組みを行うこととしております。また、第7章第1節大綱及び基本方針において、子どもたちや県民に史跡甲府城跡の魅力を伝えるため、学校教育や社会教育と連携した取り組みを行っていくこととしております。</p>

第7章 整備の理念と基本方針				
4	第4節 基準とする年代	<p>これからの新たな歴史づくりです。どのような町づくりをしていくかです。当然当時を忍ばせることが出来る風情を持たせた町になるかと思いますが…</p> <p>お城はどの時代を創りだそうとするのか、していくのが重要だと思います。どこまで妥協できるかで、真に資料の豊富さと判断です。例えばお城の南側、歴史の流れで言えば明治です。表現されているところは今は何もありません。当時の住所を思い出させる利用もいいかもしれません。ここは藤村式建築の擬洋風の建物風建築で小町をまとめてみてもいいかもしれません。まだまだ長くなりそうですね。武田の館周りはここでは別のこととさせていただきます。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>甲府城跡の整備については、柳沢家が甲府城跡を再整備した時期（宝永元年(1704)～享保8年(1723))の城の姿を基本とし、石垣の復元については、野面積み技法に特徴があることから、築城期を基本とすることとしております。</p> <p>なお、お城南側の整備につきましては、H29年度に山梨県と甲府市により策定した「甲府城周辺地域活性化実施計画」において「甲府城と調和した緑豊かな空間及び江戸風まちなみの整備」という考え方を軸とすることとしております。</p>
第8章 整備基本計画				
5	全 般	<p>「史跡甲府城跡整備基本計画」へのご意見募集に呼応してすばらしい資料を拝見させて頂き有難う御座いました。</p> <p>計画に基づき進捗されんことをご期待申し上げます。</p> <p>たいていの観光地には行ったことがある人が増え、何処に行ったと言うことが自慢になる時代は終わりました。知りたい情報はその場で入手ができ、自分が行った気さえさせてしまう。その中で観光事業と歴史的建造物の保存と活用を積極的に結びつけて行かなければならない。</p> <p>お城戦略的事務所の設置（仮称）</p> <p>国史跡としての甲府城跡を将来に繋いでいく運営と管理に関わる事を目的とする。</p> <p>○県主幹部署からの指示等について活動の取り組みを具現化し推進する。</p> <p>○民間の方々とお城に関する協同的な活動を推進する。</p> <p>○訪問者（お客様）への情報発信とフォローアップでお城解説度を充実する。</p> <p>多くの人々が訪れるような仕掛けづくりと何か！！「おもてなし」とは</p> <p>訪問をする前にここに行きたいと思わせる資料はあるか！ 「お客様の選択」</p> <p>訪問をした後にここに来てよかったと思わせることを行なったか！ 「お客様の後悔」</p>	1	<p>【その他】</p> <p>お城戦略的事務所の設置（仮称）としてご提案のありました目的・機能につきましては、計画第8章第6節（1）日常的な維持管理、保存、公開に関する運営・体制の整備、（3）官民一体となって協働する体制整備及び第3節4（1）史跡とともにあるガイダンス機能、第5節2情報の発信・案内において取り組むこととして記述済です。このため、事務所設置につきましては、今後の施策・事業の検討に当たり、参考にさせていただきます。</p>

6	第3節 活用整備 に関する 計画	<p>「天守閣がない」。これは県民、市民が非常に高い感心事として常に思っていることであります。他のお城についても如何にして天守閣を創建し、町の活性化につなげて行こうかと取り組んでおられるのが現状のようです。山梨県と甲府市が無いから無いでは余りにもお粗末であると思います。ではその根拠は如何なるものなのでしょう。時代背景を考えても瓦の埋設物を見てもそうはならないことだと考えるのが妥当だと思われます。書いて無ければ書くのを忘れたのでしょうか。資料が無ければ燃えたのかもしれませんが。この様にこのお城をするのであればその根拠を示し、県民市民に問うのが良い施策ではないかと思われます。この件は今、この時期でなくてもいいのではないかと思います。これは是非お考えを頂きたいと思ひます。「復元的整備」のお考えではどうでしょうか。</p> <p>謝恩碑しかり武徳殿しかり、しからば鉄道もしかりで当時の城中の図面に載っていないものが現在存在している事もしっかりと考えて行かなければなりません。将来に向けてこれは観光を残すか歴史を残すかの課題でその残し方を問われているようです。</p> <p>個人的には、「天守閣はあった」です。</p>	1	<p>【反映困難】</p> <p>第8章第3節3遺構表現 (4)歴史的建造物の復元等に記載しておりますとおり、歴史的建造物の復元的整備について文化庁が基準を定めており、建物の規模、材料、内部・外部の意匠・構造等を示す史資料や、発掘調査等による関連遺構の検出等の情報が必要となります。</p> <p>「天守閣」の復元的整備につきましては、現在これらの史資料が所在が確認できないため、整備は困難であります。</p> <p>なお、県では引き続き甲府城跡の歴史的建造物について、情報提供の呼びかけや、調査を行って参ります。</p>
7	第5節 公開・活 用に関する 計画	<p>この「基本計画」を進捗管理し作業を地道に進めて経過を知らしめることが重要だと思ひます。お城に関心のある人、関係をしている人達等何らかの利益を得る人から情報を発信し、徐々に市から県へと広めていかなければならないと思ひます。</p>	1	<p>【記述済】</p> <p>第8章第5節2情報の発信・案内において記述のとおり、計画の推進に当たっては、専門家や委員等の意見を伺うとともに、発掘調査・整備等の積極的な公開を行います。また、甲府城跡を集約したHPを立ち上げ、調査・研究・整備・イベント等に関する情報提供を行うなど、県民やNPO団体、観光団体などと協働して継続的に情報発信を行って参ります。</p>